



市立病院は平成16年度赤字、平成17年度も赤字か

問 平成17年度の病院経営状況はどうなっているのか。

市長 公共の医療機関だけではなく、地域医療の中核として果す使命がある。

市立病院事務局長 入院外来合わせ平成17年11月までの状況は減収、患者も若干減で平成16年度並みの経営状況になるのでは。

問 平成16年度は、46点もの医療設備の充実をし、職員研修にも力を入れていたのに、何故、患者は激減したのか。

市立病院事務局長 医者が減ったため、患者を診察する能力に影響が出た。

問 原因が判っているのにどうして赤字になるのか。また、病院の会報で副院長は病院改革には開設者（市長）からの経営権限の移譲が必要であると述べているが。

市長 私も経営には責任があることは判っている。もう少し経過を見て恒常的な

赤字体質なら思い切った手を打たなければと思う。

問 院長何か答弁は。

市立病院院長 今考えていることは、施設の機能、システム組織を変える事、地域完結型急性期病院にし、収入を増やすことである。

11月24日から導入の電子カルテによって増収に繋がりたいと思う。

問 近隣病院では職員の能力

中富 正徳
議員

力評価をしつつ経営していると聞いているが。

市立病院事務局長 地方公

営企業法の全部適用にする、独自で収入に見合った病院経営が出来る。

問 「医は算術」ではないが、赤字が続くなら経営は維持できなく破産する。もっと全職員で現況打破に取り組んでいただきたい。



市立病院の会報「山茶花（さざんか）」

桑野市長二期目に問う

農地改革の取組みは

問 担い手の育成及び集落営農における法人化が重要であると思われる。対策をどう計画されているのか。

市長 終戦直後の農地解放に匹敵する大改革である。

農政課長 担い手としては、農業所得が650万円以上ある認定農業者、20ha以上の経営規模による集落営農を計画している。集落営農においては5年以内の法人化が条件であるが、法人化しなかった場合、小麦の生産額では安定基金及び奨励金がなくなり1/4以下（60kg当り約2,000円）となる。

問 生産コストを考えると全く採算が取れない。耕作放棄を回避するためにも市がJAと一緒に大改革が必要。

行政改革は

問 桑野市長二期目に問う。行政改革での人件費の削減、5年で40人の職員削減をどの様に進めるのか。

市長 財政健全化計画を一つ一つ上げていくことが大事。行政サービスのメニューは減らさず行政の側にいる人達の我が身を削り行政コストを下げる。住民の皆様方の協力を仰ぎ行政コ

ストを下げる。これが基本的な考え方である。

問 市長自身も選挙の反省として、市民に正しく情報が伝わっていないかったとある。今後の方策として、幅広く詳しい情報を伝えるという点で考えを聞きたい。

市長 新幹線問題において市民一人20万円の負担金が発生する等、事実と違う情報が流れた。正確な情報を一杯折に触れ、伝えなくてはならない。

田中 瑞広
議員



法人化が課題の土地利用型農業